

参加者、

浅田、石川、石黒、北島、
柴崎、中島、中野、安田、山岡、

ゲスト、

阿木、古宇田、小泉、鈴木、佐藤、

Sep 23, '95

BMW RS Club

かわらばん

水上より湯の小屋林道、
鳩待峠、片品村、沼田へ、
企画担当、山岡、中島、

つい先日までの炎暑が、夢かと思える程に空の色は深く、朝夕の冷氣も鋭くなつて来ました。夏の間はあれ程に待ち望んでいたのに雨が無く、いざツーリングのシーズンが始まると雨に泣かされ、物事というのは、なかなか好都合には働かないものようです。
その雨だという偽予報に騙されてキャンセルとなつた、9月3日の代替ツーリングが、数人のゲストも交えて「秋分の日」の23日にも催行されました。

折りからの連休で、関越自動車道に入る前からの渋滞となりましたが、そこはバイクのことですでの気にもせずに、7時半をやや回ったところで、第二集合地の上里SAへと各々が散って行きました。一度止まるといつも長くなる我が会ですが、メンバーの尻をつくようにして水上インターへと急ぎました。

走るほどに赤城の山や谷川連山が、薄墨を流したように目の前に広がり、今日も天気は我に味方したかに見えましたが、怖いかに水上が近付くにつれて道路が濡れ始め、山には雲がかかっていました。今日もダメかと暗澹たる気分にさせられましたが、「これ以上は悪くならないよ」というガソリン屋のお兄ちゃんの言葉を信じて、湯の小屋林道へと走り始めました。走るほどに雨は上がり、所どころに早くも秋色に変わり始めた木々の葉が見えてきました。

熊の温泉で名高い宝川を左手に見ながら抜けて、藤原湖から胴元湖へ走って小休止。橋の下を覗くと、川底の石が数えられる程の美しさで、その石を数えていましたが、いざメンバーを数えてみると、なんと居るはずの二人が足りません。

安田さんとゲストの古宇田さんです。山岡さんが安田さんを探しに戻り、我々は奈良俣ダムの上に上がり、遙か彼方に広がる新潟の山々や、飛び交う岩燕の姿を追い、更に眼下の石を積み上げて作ったという、ダムの威容に感嘆の声を上げたりしました。

無線に山岡さんの声が入つてきました。「谷川岳の天神平に有る駐車場まで来ましたが居ません」との事。彼が戻るのを待つて更に山の中へと入つて行きました。

紅葉の時期には見事に色付いた紅葉がその影を渓流に落とし、歌人の水原秋桜子が「照葉峠渓谷」と名付けた所としても有名な渓谷を抜け、尾瀬の入り口の「鳩待峠」へと峠を飛ばしました。シーズンには少々早いだけに車も少なく、長いコースが続いて峠病のメンバーにはゴチネンな所です。太い木には真っ赤に色付いた鳶ウルシが絡み付き、ハゼやウルシが早くも色付いて、生きている事を、誰かに何かに感謝したくなるような光景でした。

あと半月もすると全山が赤や黄色に色付き、カラマツ林が印象派の絵を見るような見事さに変わり、そして更に半月が過ぎると、早くも雪がちらつくそうです。

山を走り下りて片品村を抜け、野菜やキノコを売る屋台を目で追つながら、鎌田へとやってきました。ここで左に道をとると日光金精峠方面へ、そして右に行くと「吹き割りの滝」を通じて赤城、沼田方面へ行きます。

随分と峠を攻めて腹がすいたら気力も萎えてきたようで、ここで待ちに待つ昼飯となりました。文字どうり“門前、市をなす”ように混みあう「たけや」という釜飯屋を山岡さんが見付けてきて（試食はしていないそうですが）、早速に入りました。車が一杯で隣に有る“ナイトスポット何とか”という所の駐車場にも置かせてもらいました。

なかなかに旨い焼き鳥で飲んでいるうちに、一釜づつ丁寧に炊き上げた釜飯が出来てきました。窓の外には所處で色付いた山々が広がり、程良く疲れた体に冷たいビールが、いとも爽やかに感じられました。適当にオコゲの付いた釜飯の味も上々でした。この店はお薦めです。

ここで迷子になつた一人の古宇田さんより携帯電話に連絡が入り、高速で早くも間違えて藤岡へ行き、更に赤城を走つてから沼田の近くに居るそうで、30キロばかりを走つて飯屋へ飛んで来ました。我々よりも随分と距離を走つていました。ゴクローさんです。

お彼岸の上に連休なので、高速の込み合つたのを避けようと、赤城山行きをキャンセルして帰途につきました。白バイが多いという古宇田さんのアドバイスを胸に、ハミ禁に気をつけながら沼田へと向かひました。前を走る石川さんからの無線で、「中島さん、いかにもボリ公が居そうですねー」と話しているうちに、怖いかに直線道路で見覚えのある、赤いジャンバーを着た人が白バイにパクられています。なんと浅田さんです。やっと貰つたゴールドカードを見せたのですが、田舎のお巡りには効き目が無かったそうです。案外と見たことが無かったのかも知れませんね。???. 軽く(?)飲んでいたので、ヘルメットのシールドを下ろした併で、お巡りさんとお話しをしたそうです。

みんながハミ禁をしているのに、浅田さんだけが捕まつたのは気の毒ですが、お彼岸でお寺さんに払うお布施が、国庫に入ったと思って諦めて下さい。厄落としだったかも知れませんよ。

沼田から高坂SAまでを一気に飛ばし、ここでお茶を飲んで解散となりました。文京区の家へ五時過ぎに帰つて丁度400キロ、僅かに水上で雨に遭つたのみで、久々に楽しいツーリングでした。私と山岡さん、そして浅田さん以外は初めてのコースだったそうで、評判も上々でした。ご参加の皆さん、御苦勞様でした。

次回は10月28-29日の一泊ツーリングです。奮つてご参加下さい。

追記； 家を出る前にアンテナを折り、その為に無線が使えず迷子になつた安田さんは、宝川方面へ入り、我々が奈良俣ダムで休憩をしている間に、我々よりも先に行って鳩待峠へ入り、岩魚の塩焼きを食べ(酒は飲まなかつたとか)、更に赤城方面へ仲間を探しに行ってから、一人で東京へ帰つて来たそうです。

教訓； 無線の無い人は仲間の間に入つて走りましょう。